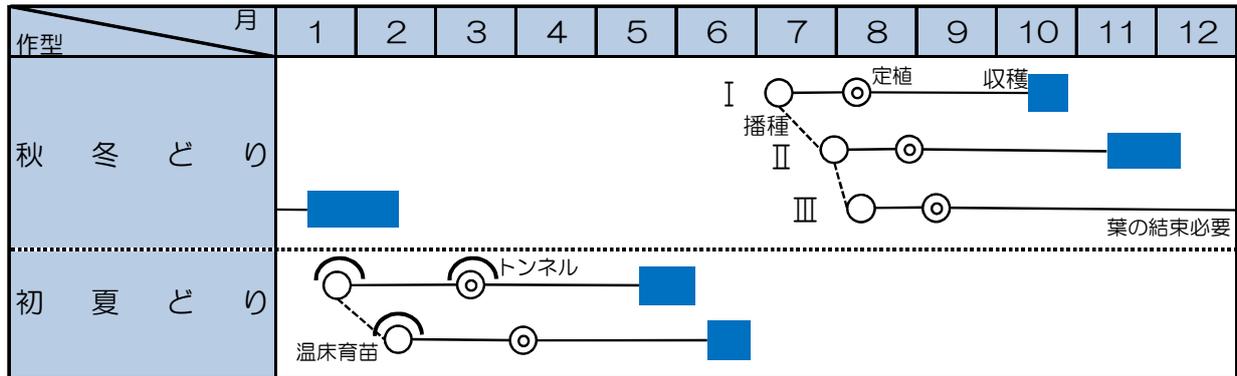


カリフラワー (アブラナ科)

播種時期にあった品種を選ぶ。冬どりで
は、花蕾を保護するため葉を結束する。



1) 適地

冷涼な気候を好み生育適温は 20℃前後です。また、有機質の多い土壌で生育がよく、酸性土壌では石灰の施用が必要です。従来の白い花蕾の品種のほか、紫やオレンジ、黄色の花蕾の品種、さらにはロマネスコのように円錐形にとがった花蕾の品種も出ています。

2) 品種

秋冬どりⅠ：里月、白菊、菊月、スノークラウン、紫雲 など

秋冬どりⅡ：里月、白菊、菊月、輝月、スノークラウン、紫雲 など

秋冬どりⅢ：輝月、春月、寒月、紫雲、清月 など

初夏どり：白菊、スノークラウン、清月 など

3) 作り方

【播種】128 穴のセルトレイを使用します。コート種子または裸種を1穴に1粒ずつ播種して覆土し、たっぷりと灌水します。播種が高温期の時は、播種後 24～36 時間は涼しい小屋に段積みし、催芽させます。発芽を確認したら直ちに 30%程度の遮光ネットを張ったハウス内に並べます。育苗期間は、播種後 25 日くらいが目安で、14 日目頃から市販の液肥を 500 倍程度に薄め、3日に1回灌水代わりに与えます。低温期に播種する場合は、最低 20℃程度を確保できる育苗床の利用が不可欠です。

【圃場の準備】定植 1 か月前に 1m²当たり 2kg の堆肥と苦土石灰 100g、BMようりん 50g を全面に施用して深く耕しておきます。定植の1週間前にホウ素入り高度化成肥料を 1m²当たり 60g 施用し、幅 135cm の畝を立てます。

【定植】本葉が 2.5～3枚になった頃が適期です。条間 50cm、株間 40cm の 2 条植えとします。定植後は散水チューブやスプリンクラーで十分灌水します。

【追肥】1回に高度化成肥料を 1m²当たり 30g ずつ施用します。1回目の追肥は植えつけ後 15 日目頃に、2回目はその後 20 日ほどしてから行います。追肥は、1回当たり高度化成肥料を 1m²当たり 30g となるよう、条間に施用します。株が大きくなり、条間への施用が難しくなってきたら、畝間に施用しても構いません。

【凍害防止】冬季に収穫する作型では、花蕾が低温や雪の影響で傷みます。それを防止

するため、12月上中旬頃に外葉を束ねて結束し、花蕾を保護します。

【収穫】頂花蕾の直形が12~15cmくらいになった頃が収穫の適期です。特に、まだ気温の高い10~11月や初夏どりの作型では収穫適期の幅が短いので、とり遅れないようにしましょう。

4) 病害虫防除

病害ではべと病、菌核病、軟腐病が発生します。いずれの病気も株が弱ると発生が多くなるので、排水、通風をよくします。害虫ではアオムシ、ハスモンヨトウ、コナガなどが発生します。いずれも、大きな被害を受けてからでは遅いので、早めに防除しましょう。



収穫した黄色い花蕾の品種